

## Ⅱ 調査結果の概要

- 「食育への関心度」は 89.1%となっており、国の調査結果と比較して『関心がある』と回答した人の割合が高くなっている。食育に関心がある人に、その理由を聞いたところ「生活習慣病（がん、糖尿病など）の増加が問題になっているから」（60.5%）を挙げた人の割合が最も高く、次いで「子供の心身の健全な発育のために必要だから」（59.6%）、「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事など）が問題になっているから」（52.9%）となっている。性別に見ると、「子供の心身の健全な発育のために必要だから」を挙げた人の割合は女性で高く、「肥満ややせすぎが問題になっているから」を挙げた人の割合は男性で高い。また、ふだんの食生活で特に力を入れたい食育は、「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」を挙げた人の割合が最も高くなっている。
- 「主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上ある」が「ほぼ毎日」の人の割合は 32.9%となっており、国の調査結果と比較して半分程度の割合である。「週に4～5日」「週に2～3日」「ほとんどない」と回答した人に、主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数を増やすために必要なことを聞いたところ、「手間がかからないこと」（61.4%）を挙げた割合が最も高く、次に「時間があること」（47.2%）が高くなっている。また、国の調査結果と比較して、「食費に余裕があること」「自分で用意することができること」を挙げた人の割合も高くなっている。
- ふだん朝食を「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は 75.2%となっており、国の調査結果と比較して約10%低くなっている。性・年齢別に見ると、「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は男女ともに60歳代以上で高く、「ほとんど食べない」と回答した人の割合は男性の30歳代から50歳代で高くなっている。また、地区別に見ると、「ほとんど毎日食べる」と回答した人の割合は北部で高くなっている。
- 食品を選択する際に重視することとして、「価格」を挙げた人の割合が 79.4%と最も高く、次いで「鮮度」（76.0%）、「安全性」（67.9%）、「おいしさ」（61.1%）の順になっている。「価格」を挙げた人の割合は女性の20歳代から50歳代までと男性の30歳代で約9割となっている。
- そう菜の購入頻度について、「ほとんど毎日」と回答した人の割合は 3.1%、「週に4～5日」と回答した人の割合は 5.9%であり、「ほとんどなし」と回答した人の割合は国の調査結果と比較して半分程度の割合である。「ほとんど毎日」「週に4～5日」と回答した人の割合について、性・年齢別に見ると、男性の50歳代の割合が高くなっている。購入する理由を聞いたところ、「作る手間が省ける」（46.6%）を挙げた割合が最も高く、次いで「調理する時間がない」（38.9%）が高くなっている。また、PRや表示されていると関心を持つ商品について聞いたところ、「栄養バランスを考えていること（「30品目使用」「栄養士考案」など）」（50.0）を挙げた割合が最も高く、次いで「国産、または沖縄県産の原料使用であること」（48.9%）、「塩分控えめであること」（47.8%）が高くなっている。

- 家族と同居している人が、家族と一緒に食べる頻度について、朝食は「ほとんど毎日」と回答した割合が 52.2%であるのに対し、夕食は「ほとんど毎日」と回答した割合が 62.0%で、夕食の方が一緒に食べる割合は高くなっている。国の調査結果と比較して、『朝食』『夕食』ともに「ほとんど毎日」と回答した人の割合が約 5%低くなっている。
- 地域や所属コミュニティ（職場などを含む）で、食事会などの機会があれば参加したいと思う人の割合は 49.0%であり、そのうち、過去 1 年間の参加経験について、「参加した」と回答した人の割合は 71.4%だった。
- 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気を付けた食生活を『実践している』とする人の割合は 68.3%であり、男女ともに 60 歳代以上で高くなっている。また、地区別に見ると北部で高くなっている。『実践していない』と回答した人に、実践しない理由を聞いたところ、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」（41.1%）を挙げた割合が最も高く、次いで「面倒だから取り組まない」（38.4%）となっている。国の調査結果と比較して、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」「生活習慣を改善する経済的ゆとりがない」を挙げた人の割合も高くなっている。
- ふだん『ゆっくりよく噛んで食べている』と回答した人の割合は 44.1%となっている。『ゆっくりよく噛んで食べていない』と回答した人に、どのようなことが必要か聞いたところ、「早食いの習慣を直すこと」を挙げた人の割合が 71.2%と最も高かった。
- 食品の安全性に関する基礎的な知識が『あると思う』と回答した人の割合は 60.6%、安全な食生活を送ることについて『判断している』のは 65.7%で、いずれも国の調査結果と比較して低くなっている。安全な食生活を送ることについて、『食品を買うときや食べるときに「消費期限」、「アレルギー表示」など容器包装に記載されている表示を確認すること』と『「賞味期限」を過ぎた食品であっても、必ずしもすぐに食べられなくなるわけではないため、においや見た目など食品の状態に応じて判断すること』については『あてはまる』（意識し、判断している）と回答した人の割合が約 8 割となっていたが、『健康食品を選ぶ場合は、成分名、含有量、使用上の注意、問い合わせ先、品質保証に関するマークなど表示されている内容をよく読んで自分に必要かどうか検討してから購入すること』については約 6 割となっていた。また、食品安全に関する情報を入手したい情報源として、「テレビ」（70.7%）を挙げた人の割合が最も高くなっているが、国の調査結果と比較して、「家族や友人などからの口コミ」「スーパーマーケットなど食品の購入場所」を挙げた人の割合も高くなっている。
- 郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を「受け継いでいる」と回答した人の割合は 50.6%で、「受け継いでいない」と回答した人の割合は 29.8%である。国の調査結果と比較して、「受け継いでいる」と回答した人の割合が低く、「わからない」と回答した人の割合が高くなっている。

○食べ残しや食品の廃棄が発生していることについて、日頃から「もったいない」と『感じている』と回答した割合は 97.4%、食べ残しを減らす努力を『している』と回答した割合は 96.7%だった。いずれも国の調査結果と比較してわずかだが高くなっている。